

リーグ戦2年連続5位

五十二年関東学生リーグ戦は五月四日から六月九日まで、東京・人形町の中央区立総合体育館で行われた。わが早大は善戦健闘、工べで強豪日大を破るなどしたが、実力差は上位校にいまひとつ及ばず昨年を引き続いて総合五位に終わった。

Aクラスの夢果たせず 力の差まだまだまた

中④早大⑤日大⑥慶大
〔総合成績〕 ①中大②法大③専大④日大⑤早大⑥慶大
〔評〕フルレレ、サーブルは四年生二人(張 宮)三年生一人(篠原)二年生一人(森)という構成。全員経験者をそろえることが出来たのは、私が監督に就任して以来初めてのことで、それだけに期待をもつてリーグ戦に臨んだのだが……フルレレでは宮が初戦、第二戦に連続全敗したが響き、勝つことはもちろんスコア的にも大きく引き離される惨敗、第三戦から徐々に調子を上げて、第四戦の対専修戦では「あわや勝てるか」という接戦だった。サーブルは全試合を通じて全敗者が出す、負けたとはいえ各試合とも4-1、5-1と中盤までは互格の勝負ばかり。結局力の差、精神的なスタミナの差が出て後半息切れ。新人の森が期待以上の活躍をしたのが大きな収穫。それに反し宮にもう一つ元気のなかったのが痛い。

- ◇フルレレ◇
●早大② 14中大○
●早大④ 12法大○
●早大⑤ 11日大○
●早大⑥ 10専大○
○早大⑩ 4慶大●
原7勝13敗、宮6勝14敗、森4勝16敗
〔順位〕 ①中大②日大③法大④専大⑤早大⑥慶大◇サーブル◇
●早大⑤ 11法大○
●早大⑥ 10日大○
●早大⑦ 11中大○
●早大⑧ 9専大○
●早大⑩ 6慶大●
〔成績〕 張12勝8敗、森8勝12敗、宮7勝13敗、篠原6勝14敗
〔順位〕 ①中大②法大③日大④専大⑤早大⑥慶大◇エベ◇
●早大② 14中大○
●早大⑧ 8日大●
●早大⑤ 10専大○
●早大⑥ 8法大○
●早大⑨ 5慶大●
〔成績〕 張11勝8敗1分、木田7勝12敗1分、篠原6勝13敗1分、田中4勝7敗1分、宮2勝5敗1分
〔順位〕 ①専大②法大③

早慶戦 一勝一敗
第三十回早慶定期戦は一月三日、日吉の慶大体育館で行われ、早稲田はフルレレを落とすもの、続くエベ、サーブルを連取、二勝一敗で優勝。通算成績は早稲田の16勝14敗となった。

総括すれば、上位校の力を10とすれば早稲田は6、7といったところ。この差を少しでも埋めなければAクラス入りが出来ない。大きな課題である。(川名)

慶応二部へ転落

52年度リーグ戦で総合最下位の慶大は六月九日、二部優勝校拓大と入替戦を行い、1勝(サーブル)2敗と負け越し二部に落ちた。慶大は三年前に中心戦力となるべき部員の大量退部事件があり、戦力が大幅にダウン。前年度のリーグ戦も三種目全敗で最下位。二部国士館大との入替戦にきわどい勝利を得て辛うじて一部の座を保っていた。なお慶大は昭和十二年クラブ結成以来初の二部。早稲田とは良きライバル校として技を競ってきた間柄だけに、一部復帰を早く実現させてもらいたいもの。

種目	早大	慶大
フルレレ	5-4 入交○	5-1 三矢○
サーブル	5-4 伊藤○	5-4 小倉○
エベ	5-3 入交○	5-2 伊藤○
張	5-2 伊藤○	5-2 伊藤○
森	5-2 伊藤○	5-2 伊藤○
井上	5-2 伊藤○	5-2 伊藤○
篠原	5-2 伊藤○	5-2 伊藤○
田中	5-2 伊藤○	5-2 伊藤○
宮	5-2 伊藤○	5-2 伊藤○
木田	5-2 伊藤○	5-2 伊藤○
中	5-2 伊藤○	5-2 伊藤○
伊藤	5-2 伊藤○	5-2 伊藤○
小倉	5-2 伊藤○	5-2 伊藤○

月曜会にご参加を

一年前に発足したOBの定期練習(月曜会)は相変わらず続いています。提唱者の成瀬正澄会長は、独立して事業を始めたためにこのところ姿を見せませんが、川名監督をはじめ新井、橋本、吉田、成田各会員が、ギョウラー参加。それに森居、高橋、若手会員が随時参加。佐藤前監督、越会員が時々ハッパをかけた顔を見せます。だれでも、いつでもおい出ください。

昭53年1月31日発行
編集者 早稲田大学稲光会
発行者 早稲田大学稲光会
印刷 早稲田大学稲光会

稲光会報

2~3面 滝口杯行事グラフ特集
4面 現役戦績 稲光会便り

第一回滝口杯開かれる

新設された第一回滝口杯争奪紅白対抗戦が五十二年十月十日、母校の体育館四階ホールで行われ、紅軍が優勝した。紅軍は金子誠、白軍は中村栄太郎両会員が主将を務め、それぞれフルレレ、エベ、サーブルの三種目に分かれて熱戦を展開、精鋭をそろえた紅軍がスタートからリード、危なげなく白軍を降した。試合後紅軍金子主将に、滝口宏先生から初の滝口杯が授与された。(関連記事2、3面に)

〇：中村(栄)さんが独自のフォームでサーブルを構える。対する金子さんも互いに小手を狙い、出バナへのコントロール・アタック。懐かしい長老OB同士の一戦に会員、家族、現役たちが大喜び。トウシュを取



稲光会報の発行
滝口杯の授与
余興、福引大
司会者

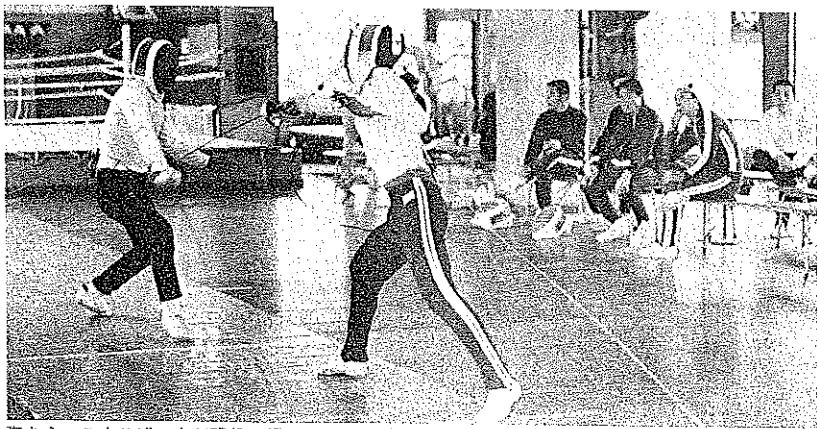
張主将優勝

老いも若きも共に楽しめる大会にしようじゃないか。これは中年以上の会員の意見だ。結局「やることに意義がある」との考えを最優先させ、無難な紅白戦に落ちついた。それも、当日「中村さん、白軍の主将をやってください」「越さんと成瀬さんとジャンケンしてください。勝った方が紅です」といった調子で、即席に紅白に分かれたもの。それで何のトラブルもなく、和気合々のうちに進行。稲光会のみとまりのよさを改めて感じさせた。

吉田さん逝く

稲光会の草分け会員の一人である吉田茂治氏(五三)が五十二年九月二十五日、急逝された。吉田さんは同八月の総会で、満場一致により会員に推されたばかりだった。お通夜が行われた二十六日、東京・国立市の同氏宅には滝口宏前部長、平俊文部長はじめ、斎藤正秋、中村栄太郎、金子誠、佐藤武、越茂樹、青山甲子郎

張主将の話 大学生活最後の年に二度続けて優勝も最初はずみつき、最後の決定戦で勝つというきわどい



覆さへこませば、まだ現役で通用しそうな試合はさすが若手OBです。
〈左・北島氏、右・森居氏〉

懐かしい顔々…一堂に

第1回滝口杯争奪戦は52年10月10日、母校早大内で盛大に開催された。第1部「オールOB紅白戦」(午前10時)には約40人の会員が参加。斉藤正秋、中村栄太郎、佐藤武、越茂樹各会員ら超OBも昔とった杵づかで華麗?な剣さばきを披露、ヤンヤの喝采を浴びた。引き続き第二部「懇親パーティー」(午後2時、大隈会館)が行われ、滝口先生はじめ佐野雅之氏(体協)を加え、会員および家族など多数が参加、予想以上の大盛況だった。第三部は有志による「二次会パーティー」(午後6時、新日鉄山谷寮)。大多数の会員、夫人、現役、学院生が出席。各年代のお得意芸を次々と披露、期せずして新旧芸能大会となり、夜のふけるまで宴はつきなかつた。



大隈会館庭園で全員の記念撮影。

華やかに懇親パーティー



さすが決まるといったどかいわいとか。佐藤(武)氏の英姿です。



昔をホウフツとさせるフレッシュは成瀬氏。右は越氏。



昔のオレだったら、あそこはこうやっとな話しているのでしょうか。

昔のオレだったら、あそこはこうやっとな話しているのでしょうか。



滝口先生はいつもニコヤカでした。



平先生の首頭で「カンバイ!」



いつ、どこにでも芸人はいるものです。(無芸大食よりはイイさ)

最後まで盛大でした



一昔前(?)は最高の黄金試合でした。…勿論今でもそうですが
〈左・竹村氏、右・川名氏〉



最後はいつもあのなつかしい早大校歌ってシャンシャン。



滝口杯を囲んで。この人たちは紅軍だったのか白軍だったのかはわかりません。



会場の片すみでムスカシソーに三者会談。



何やらお見合い風景の様ですが、まったくちがいます。(念のため)